

「聞く耳があるなら、聞きなさい」

マルコ4：21-25

平吹光太 24.2.18

本日はイエス様がたとえを用いて私たちの罪と言動の責任について語られている箇所になります。本日の説教題「聞く耳があるなら、聞きなさい」とさせて頂いたようにイエス様が語られたみことばを自分のこととして捉えて聞き、共に主の御心を求めていきたいと願います。

I. 明かりと暗闇

この箇所の前の種まきのたとえ話によって、イエス様のもとから離れて行った人々もいましたが、それでもイエス様について来た聞く耳のある者達と12弟子達に続けてイエス様は新たなたとえ話をされました。

「イエスはまた彼らに言われた。『明かりを持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。隠れているもので、あらわにされないものはなく、秘められたもので、明らかにされないものはありません。』」(21)

明かりとは油をいっぱい入れて芯に火を灯すオイルランプのことで、当時のランプは手の平に乗る小さなもの。当時の庶民の人々が住んでいた家は煉瓦造りで、窓は小さく日当たりはほとんど無い暗い家。そのため昼間でもランプが必要不可欠なものでした。明かりは闇を照らすためのもので明かりが無ければ、家の中は真っ暗。ランプは燭台(ろうそくやランプを置く台)の上に置くことで家全体を明るくします。明かりは暗闇の中でも隠れているものを表すためのものでもある。暗闇ではつまずいてしまう。

升とは、ランプの火を消す道具(空気を閉じ込める蓋のようなもの)。つまり、せっかく付けた明かりをすぐに消したり、寝台(ベッド)の下に置くことは普通しないということ。イエス様はご自身が来られたことで神の国の支配が明らかになっているにも関わらず、みことばの招きに耳を閉ざしている態度は相応しくないことを、明かりを升の下や燭台の下に置くたとえを持って語られたということ。

「隠れているもので、あらわにされないものはなく、秘められたもので、明らかにされないものはありません。』」(22)

誰も知らず自分しか知らずに上手く隠して密かにやっていることや思いも、明かりによって全て明らか にされるとということ。暗闇の部屋を明かりによって照らされ、隠れていた汚れが見つかるように、みことばの光によって私たちの罪の汚れが明らかにされる。みことばによって明らかにされたなら、明かりを消してはいけない、消しても汚れは残る。明かりに照らされたなら神に自分の罪を告白し、悔い改め、自分の言動の責任をとることが大切。そのことをイエス様はたとえを用いて弟子たちに語られた。明かりは暗闇を照らし、隠れているものをあらわにする。暗闇が明かりに打ち勝つことはできない。同じようにみことばの光は私たちの隠している罪を明らかにする。私たちは神が忌み嫌われる罪を隠し続けることはできない。私たちは明かりである神のみことばに心を照らされたなら自分の言動に責任を持つこ

とが問われる。イエス様を信じて神に自分の罪を告白し、悔い改めて赦される人生か、それとも自分の罪を隠し続け滅びゆく人生を選ぶのかは私たち一人ひとりに委ねられている。

神が憎まれる罪についてガラテヤ人への手紙 5 章 19～21 節に記されている。

①性的な罪：「淫らな行い（あらゆる不義の性交、結婚関係以外の性行為全般を指す）汚れ（性的な汚れを指す）、好色（放縦、男女関係に締りがなく、不品行を自由奔放に行う）」（ガラ 5:19）。

②異教的な罪：「偶像礼拝（真の神以外のものを拝むこと。真の神以上に何かを欲張り握り締め執着していること。真の神を認めない最も重大な罪、高慢。）、魔術」（ガラ 5:20）。

③兄弟愛を破る罪：「敵意（敵対関係、「愛」の正反対）、争い（喧嘩、あつれき）、そねみ（嫉妬、ねたみ）、憤り（怒り）、党派心（野心、競争心、ライバル心、利己心、我欲、反抗心）、分裂（不和）、分派（派、宗派、教派、党、党派に分かれる事、仲間割れ）、ねたみ（悪意、嫉妬）」（ガラ 5:20-21）。これらはすべて自己中心から派生するもので、主の教会の交わりを壊すもの。「もしだれかが神の宮（御霊が宿られる教会）を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮（御霊が宿られる教会）は聖なるものだからです」（I コリ 3：17）。

④不節制の罪：「酩酊（飲酒によってひどく酔う事）遊興（飲み騒ぐ事）」。これらの罪は、神か

ら与えられた大切なからだや家族との関係を壊し、不品行や中毒や経済を食い尽くすという刈り取りにつながって行く。「このようなことをしている（現在分詞形＝神に悔い改めず、継続的に罪を行い続けている。神に正直に自分の罪を告白しない。）者たちは神の国を相続できません」（ガラ 5:21）。

これらのことは神が憎まれ忌み嫌われること。このみことばによっても私たちの心が照らされ、聞く私たちに責任を神は問うている。私たちの心の暗闇の部分が神のみことばの光によって照らされる時、私たちの心は罪の意識を生じ、痛みを覚える。その時に私たちは、アダムとエバが神様から隠れたように、隠れてはいけない。神が聖書を通して語られた時に素直に神の前に罪を告白し、悔い改める（相手がいる場合はその人にも謝る）。それは神が私たちに恥をかかせるためではない。罪を示されても隠してそのままにしておいたり、罪を犯し続けるならば、いつか必ず自分が恥をかく（自分の罪を刈り取ることになる）。自分の祝福はもちろん、また周りの愛する人々の祝福のためにも示された時にすぐ神に自分の罪を告白し、悔い改めることが重要。そうするならば、「神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」（Iヨハネ 1:9）

だからイエス様は私たちに「聞く耳があるなら、聞きなさい。」（23）と厳しい言葉を言われている。私たちは主のみことばを真剣に聞き、素直に自分の弱さを認め、主の前にへりくだり、神の前に罪を告白し、悔い改め、祝福の道を選びとっていく者でありたい。

II. 聞いていることに注意しなさい

「また彼らに言われた。「聞いていることに注意しなさい。あなたがたは、自分が量るその秤で自分にも量り与えられ、その上に増し加えられます。」(24)

「自分が量るその秤で自分にも量り与えられ」とは、あなたの量る基準が、あなたの生き方の基準になるということ。みことばの光によって成すべきことを示されても、自分の言動の責任を取らず神の言葉をないがしろにする人は、それがその人の生き方の基準になる。

もしくは、みことばの光に心が照らされ、自分の間違い、罪を認めて神様に心から自分の罪を告白し、悔い改め、主に赦しを乞う人は、それがその人の生きる基準になる。私はすぐに誘惑に負け、罪を犯す弱い者です。あわれみ助けてくださいとみことばに示されて神のみことばに素直に聞き従うか。あなたが量る神のみことばに自分を量るならば、それによってあなたの生き方が量られる。つまり、私たちが神のみことばをどのように聞き、応答するかで神の私たちへの取り扱いが変わるということ。これは私たちにとってとても重大なことです。そのため、イエス様は「聞いていることに注意しなさい」(24)と私たちに警告をされている。私たちは自分の言葉、行動、態度においての責任を改める必要はないでしょうか？みことばで語られた時、他の人に当てはめようとするのではなく、自分の事として素直にみことばに聞き従うのであれば、「その上に増し加えられます」(24)とあるように、神の国、神についてさらに神の恵みを深く知り、豊かな実を結ぶ者と主は私を変えてくださる。

「持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているものまで取り上げられてしまうからです。」(25)

ここは2つのたとえ（明かりとはかり）のまとめ。つまりこの意味は、聞く耳のある者は神の国の恵みをさらに与えられ祝福が増し加えられる。しかし、聞く耳を持たない者は神の祝福を失うだけでなく、福音を聞く機会までも失ってしまうということ。このことをイエス様は弟子たちやみもとに集まった人達に語られた。

神のみことばを聞いて神に自分の罪を告白し、悔い改めて主に従うという応答をするか、それとも背き続けるか。私たちはその責任をとることになる。神は明かり（みことばの光）によって、私たちを締め付け窒息させようとする恐ろしい罪に気付かせてくださいます。だから私たちは普段から主のみことばに聞き養われる必要がある。みことばによって、罪を示された時、直ちに神に罪を告白し、悔い改め、主に従って歩むことが大切。私たちを唯一正しく導いてくださるみことばに従って歩むなら、豊かな実を結ぶ者となり、周りの祝福、教会の祝福となる。「聞いていることに注意しなさい」(24)と仰せられる主にいつも聞き従って参りましょう。